

盛岡で輝いている人を紹介するコーナー「theもりおか人<sup>ひと</sup>」。今回は特別編として、本市出身で映画「るろうに剣心」や「3月のライオン」などを手掛け、日本を代表する映画監督の1人である大友啓史<sup>けいし</sup>さんに話を聞きました。  
撮影協力：ティーハウスリーベ（内丸）

### 映画と出会ったのは高校時代

子どもの頃は野球に夢中でした。朝5時に起きて高松の池でランニングや素振りをしたり、野球漫画に出てくる練習方法を試したり(笑)。その一方で、本もよく読みました。我が家は本を3冊読むと漫画本を1冊買ってもらえるルールがあり、野球漫画を読みたいがために必死でしたね。それが今の仕事の基礎になったのかな。

盛岡一高に入学した頃に膝を悪くして、好きな野球ができなくなりました。熱中できるものがなくなり、一人で何となく映画館で映画を見るように。人間ドラマを描いた大人向けの洋画を見るのが好きでした。内容というより、非日常を体験できるその場の雰囲気<sup>けいふき</sup>にひかれていきましたね。当時内丸にあった映画館「S Y内丸」などで見た映画のパンフレットはいまだにとってあります。

### 思いがけないところから映画の道へ

実は映画監督になりたいと思ったことはないんです。NHKに入ったのもドキュメンタリーを撮りたかったからで、ドラマに関わり始めたのもやったことがないからという単純な理由。ただ、米国のハリウッドに留学し、脚本や映像演出を学ぶ機会があり、その後、「龍馬伝」などのドラマに携わる中で、映画なら自分の思いを妥協なく表現できると思うようになりました。その頃に外部からの誘いもあり、思い切って映画製作の道へ進みました。

### 映画で表すふるさとへの思い

東日本大震災以降、ふるさとの岩手・盛岡を元気づけられないかと考え、盛岡にいる幼なじみたちと「映画の力プロジェクト」と銘打ち、さまざまな活動をしてきました。盛岡で「るろうに剣心」の世界最速上映をしたり、映画祭に協力したり。今回の「影裏」は、オール岩手<sup>ちから</sup>※で撮影し、岩手の人たちが見るからこそ感動できる作品に仕上がったと考えています。クラフトビールがその地元で飲むのが一番おいしいように、地元岩手・盛岡で見るからこそ、よりリアルに追体験できる「クラフトムービー」として楽しんでもらいたい。私自身も「影裏」を通じて、ふるさと岩手・盛岡の人たちと心を通わせることができればと思っています。

※2ページ「影裏」関連記事参照



映画監督  
大友啓史さん

妥協なき表現に挑戦できる場所

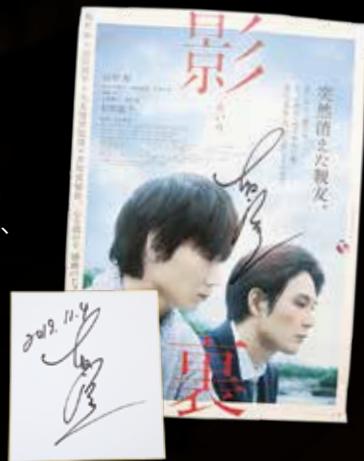
昭和41年盛岡市上田出身。盛岡一高を経て、慶應義塾大へ進学。卒業後はNHKヘディレクターとして入局し、秋田放送局を経てドラマ番組部に在籍。その後、米国のハリウッドに留学し、脚本や映像演出を学ぶ。帰国後、連続テレビ小説「ちゅらさん」シリーズや大河ドラマ「龍馬伝」などの演出、映画「ハゲタカ」の監督を務める。平成23年にNHKを退社し、フリーとなって最初の作品である「るろうに剣心」が大ヒット。その後も「プラチナデータ」、「3月のライオン」二部作、「億男」など話題作を次々と手がける。岩手県でオールロケを行った、自身11作目となる「影裏」を2月14日(金)に公開予定。



「影裏」を市内で撮影中の大友監督

### 直筆サイン色紙(5人)とサイン入りポスター(1人)を抽選でプレゼント

▶応募資格：盛岡市に住んでいる人  
▶応募方法：はがきに希望する品いずれか1つと住所、名前、年齢、性別、電話番号、広報もりおかの感想を記入し、☎020-8530(住所不要)市役所広聴広報課「大友啓史さんサイン色紙・ポスタープレゼント係」へ郵送してください。1月21日(火)消印有効。ポスターは平日に市役所本庁舎の同課で受け取りできる人限定です。応募は1人1通まで。サイン色紙の当選者発表は、プレゼントの発送をもって代えます。ポスターの当選者へは電話連絡します



もりけんに挑戦  
(5ページに掲載)の答え  
③南昌荘

広報もりおかへのご意見をお待ちしています  
アンケート専用フォームから、特集や各記事への意見をお寄せください。あなたの意見が広報もりおかを育てます。



#### 編集後記

広報はいつも職員が四苦八苦しながら作成していますが、今号の特集は、インスタグラム「盛岡という星で」を手掛けるデザイナーさんにご協力いただきました。感謝。(池内)



地球環境に配慮し、ベジタブルインキを使用しています。